

Ⅲ 研究ノート Ⅲ

再び鷗外の『塵冢』語彙について

齋藤 匡史

Tadashi SAITOU

I. これまでの研究成果

1-1

鷗外の『塵冢』は、『鷗外全集』第37巻解説(1975年4月 筑摩版)によれば、「半紙に毛筆で記された和装二冊本で…(中略)…本文中の記事によって明治三十二年の小倉赴任より同四十年に至る頃の筆記」とされる鷗外の読書雑記ノートである。実物は東京大学附属総合図書館が所有、あわせて同館には鷗外の蔵書が「鷗外文庫」として蔵されている。

当時の教養人が吸収したであろう中国語で言う「古漢語」は当然のことながら書籍、日記などには常見する。しかし『塵冢』のうち「語彙」として、鷗外が漢籍より抜き書きした400語近い漢語群(この稿では、全391語とする)のなかには、中国語史で言う「近世語」(ここでは宋代から明・清代の白話文語彙を指す)が抄出され、鷗外作品にも「近世語」が多数見られると、国文学者小島憲之氏は指摘した。日本文学に漢語が如何に受容され、表現されて来たかという氏の研究のうち、明治期について『日本文学における漢語表現』(1988.8岩波書店刊)に於いて、『塵冢』語彙の70語近くの出所が示された。

その語たるや、一般の漢和辞典に見ることの少ない語を中心とする。これらの語の出典、用例、語義などの考証については、中国学者にゆだねるほかない(上記1988小島)

1-2

『鷗外全集』の『塵冢』語彙は、語の改行があり全体が8つの部分からなる印象を受けるが、鷗外の肉筆と対照すると、これは一致しない。段落分けは恐らく編集、組版の過程で行われたものと推察され、出典探し手懸りとはならない。肉筆を見る限り、第1語から第391語(語彙数の一連番号は、今回の稿に準拠する)まで連綿とつらなり、鷗外がいったい何種類の漢籍から抄出したものか想像しがたい。

小島氏が明らかにした出典は、第1語(以下「No.X」とする。読音は便宜上単純な音読みとする)「怨饒」(ジョギョウ)からNo.142「婆婆同。女子。」のうち、40数語が明南曲『琵琶記』より抄出されたもの、No.143「沐甚風」(モクジンプウ)よりNo.183「聞人足音登然而喜」(ブンジンソクオンキョウゼンジキ)が『莊子』からの摘出語というもの。これ以降、史書、話本、白話小説類等に常見する語彙が散見されるが、鷗外文庫に残る小説類『剪燈新話』、『剪燈餘話』、『水滸』、『石點頭』、『隋煬帝艷史』、『女仙外史』、『金瓶梅』、『紅樓夢』、『隋唐演義』、『残唐五代演義』、『緑野仙踪』、『燕山外史』等、筆記小説類『閱微草堂筆記』、文言小説『聊齋志異』、六朝小説『世説新語』、唐代小説『枕中記』等からは何ら結果を得られなかった。

次に成語から探ると、No.287に季節の移ろいを言う「夏葛冬裘」(カカツトウキユウ)があり、これは『韓昌黎文集』第十一巻『原道』に見え、

次の成語No.293「特立獨行」(トクリツドッコウ)は、第十二巻『伯夷頌』に、No.297, 298「爬羅剔抉」(ハラテッケツ), 「刮垢磨光」(カツコウマコウ)は、同第十二巻『進學解』に見え、韓愈語彙が続く。No.283からNo.376まで94語についてその出処が判明した。しかしながら語順と巻順は一致せず、鷗外がどのようにこれら語彙を抄出したのかは不明である。なお鷗外の使用した判本は、鷗外文庫に収められる『昌黎集』五百家註本と思われる。

この語彙出典抽出作業は、今から20数年前に行ったものだが、これ以降、鷗外文庫所蔵書籍に何度も小説語を探したが、これといった成果は得られなかった。

II. 今回の調査と語彙検索

2-1

ネット検索の環境が格段に進歩し、今回ウェブ上の「華文字句搜尋網」(台湾)を利用して検索を行うこと可能であると遅まきながら判明。No.1からNo.391の語彙一覧表に語彙の見える出典を記入し、検索を始めると、四大奇書など章回小説が多く該当する。しかし抄出が『西遊記』とすると、行きつ戻りつで読み方が腑に落ちない。No.1「怨饒」(ジョギョウ)が西遊記第95回、No.5「險些 アブナク。最少シニテ。」が西遊記第19回から第83回各所に散見し小説に常用されることは推測できるが、不自然な並びである。前掲1988小島では、第1語「怨饒」(ジョギョウ)からNo.142「婆婆 同。女子。」のうち、40数語が明南曲『琵琶記』より抄出されたものとするが、詳細は明記されていない。まず『琵琶記』の出処を明示しなければならない。『琵琶記』からの抄出と思われるものは、以下のとおりである。

No.10「中間無甚蹉蹊 仔細」第17齣 義倉賑濟【讀招介】招狀人姓猫，名狸，見年三十有餘。身上並無疾病，只有白帶不除。今與短狀招伏，因為官糧久虧。說到義倉情弊，中間無甚蹉蹊。

No.11-①「甕中捉蠶」第17齣 義倉賑濟【末押醜上介】似甕中捉蠶，手到拿來。

No.12-②「手到拿來」同上(註：①、②等は鷗外筆記の連続を示す。以下同様)

No.13「聒噪」琵琶記17(白)我做媒婆老了，不曾见这般好笑。叵耐一个秀才，老婆与他不要。别人见媒欢喜，他到和我寻闹。相公不肯干休，只管在家焦燥。把媒婆放在中间，旋得七颠八倒。走得鞋穿袜绽，说得唇干口燥。休休，也不怕你亲事不成，也不怕姻缘不到。不吃你男儿不从，不信你妇人不好。只怕红罗帐里快活，不叫媒婆聒噪。好好，状元来了。(生上唱)

No.14からNo.21, 出処不明

No.14「佈擺些東西」不明, No.15「躲避」, No.16「潜地 コツリ」, No.17「知端的 知實」, No.18「撇下 棄却」, No.19「擾累 厄介」, No.20「撮空說謊 欺瞞」, No.21「藏頭露尾 秘而不悉言」

No.22「各人自掃門前雪」第30齣 問詢衷情〔貼〕由你，由你。我若不解勸，你又只管憂悶；待問著你，你又遮瞞我。我也莫內何。相公，夫妻何事苦相防？莫把閒愁積寸腸。難道各人自掃門前雪，莫管他家瓦上霜。

No.23「莫管他家瓦上霜 隔意也」同上

No.24「虛下潜聽 為去而留聽」不明

No.25「擔閣 棄去」第31齣 幾言諫父【前腔】不

想道相掙靶，這做作難禁架。我見你每每咨嗟要調和，誰知好事多磨？起風波，相公，把你陷在地網天羅，起風波，相公，把你陷在地網天羅，如何不怨我？天那，懊恨只為我一個，卻擔闔了兩下。

No.26-①「酒逢知己千鍾少」第31齣 幾言諫父【大聖樂】〔外下。貼〕自古道酒逢知己千鍾少，話不投機半句多。好笑我爹爹不顧仁義，卻道奴家把言語衝撞他。

No.27-②「話不投機半句多」同上

No.28-①「却將言語」第31齣 幾言諫父【大聖樂】〔外怒介〕這妮子無禮，卻將言語來衝撞我。我的言語到不中聽啊。

No.29-②「來衝撞我」同上

No.30「早被瞧破」第31齣 幾言諫父【稱人心】撇呆打墮，早被那人瞧破。他要同歸知他爹怎麼？我料想他每，不允諾。呀，夫人，你緣何獨坐？想你爹爹不肯麼？伊家道俐齒伶牙，爭奈爹行不可。

No.31「俐齒伶牙 辯口」同上

No.32「打破砂鍋 打開ク」第31齣 幾言諫父【紅衫兒】〔生〕夫人，你不信我教伊休說破，到此如何？算你爹心性，我豈不料過。我為甚亂掩胡遮？也只為著這些。你直待要打破砂鍋，是你招災攬禍。

No.33からNo.56は、『琵琶記』か否か不明。

No.33「乱掩胡遮 カクシタ立テ」, No.34「回心轉意」, No.35「招災攬禍」, No.36「牢騷不平」, No.37「不可猝得」, No.38「耳聽目撰」, No.39-①「心度口酬」, No.40-②「他人旁看」, No.41-③「五色眩瞽」, No.42-④「而公子兼綜兼理」, No.43-⑤「洋洋若平常」(註: No.39~No.43連続), No.44「諳鍊典故」, No.45「湔洗惡名」, No.46-①「拳脚眉眼」, No.47-②「各肖其人」, No.48「句白問

荅」, No.49「刺心洞骨」, No.50「寫得朗朗栖栖」, No.51-①「弄丸承蠅」, No.52-②「令人無可捉摸」, No.53「步襲序次」, No.54-①「規雉特創」, No.55-②「無古無今」, No.56「琵琶記用今叙十二行 (Anachronismus)」: (註: 拉丁語)

No.57「插科打諢」第1齣 副末開場【水調歌頭】〔副末上〕秋燈明翠幕，夜案覽芸編。今來古往，其間故事幾多般。少甚佳人才子，也有神仙幽怪，瑣碎不堪觀。正是不關風化體，縱好也徒然。論傳奇，樂人易，動人難。知音君子，這般另作眼兒看。休論插科打諢，也不尋宮數調，只看子孝共妻賢。

No.58「利縮名牽」第1齣 副末開場【沁園春】趙女姿容，蔡邕文業，兩月夫妻。奈朝廷黃榜，遍招賢士；高堂嚴命，強赴春闈。一舉鼈頭，再婚牛氏，利縮名牽竟不歸。饑荒歲，雙親俱喪，此際實堪悲。堪悲趙女支持，剪下香雲送舅姑。把麻裙包土，築成墳墓；琵琶寫怨，徑往京畿。孝矣伯喈，賢哉牛氏，書館相逢最慘淒。重廬墓，一夫二婦，旌表門間。

No.59からNo.69は、『琵琶記』か否か不明。

No.59「七推八阻」, No.60「兩下擔誤 アフハチトラズ」, No.61「敦倫重誼」, No.62「脚色」, No.63「生少年」, No.64「旦少女」, No.65「浄老男女」, No.66「丑惡男女」, No.67「末善男女」, No.68「貽少女」, No.69「外老人」

No.70からNo.130までの語彙も出処不明のまま。

No.70-①「皇然動容」, No.71-②「躍然称快」, No.72「收華歛采」, No.73-①「油然感動」, No.74-②「喟然嘆興」, No.75「添設點染」,

No.76「正主陪客」, No.77「正描旁襯」, No.78「順補倒插」, No.79-①「苗頭画角」, No.80-②「色色如妙」, No.81-①「搏兔搏象」, No.82-②「俱用全力」, No.83「手忙足乱」, No.84-①「遠山無皺」, No.85-②「遠水無波」, No.86「唱演」, No.87「雕琢推砌」, No.88「面目声欬」, No.89「洋洋纒纒立言也」, No.90「逼攏漾開」, No.91「使看者眼光霍霍不定」, No.92-①「師子弄球」, No.93-②「猫狸戲鼠」, No.94「不便抓住擒住」, No.95「有無數往來撲跌」, No.96「無聊侘傺」, No.97「委它干榮」, No.98「去醜還醇」, No.99「潑散 忘年會」, No.100「台風旗 (Windfahne李蕩談記)」, No.101「徽綸芳餌 釣」, No.102-①「嘗一哈水」, No.103-②「如甘苦知」, No.104「給之詬之 欺罵」, No.105「杜園賈誼 偽慷慨」, No.106「熱熟顏面 偽敦朴」, No.107「兵不解医 盛矢器 國語」, No.108-①「宥過無大 有過失 無宥其大」, No.109-②「刑故無小 刑故意 無刑其小」, No.110「姑息 婦兒也 尸子註」, No.111「擗甲 俗作擗甲」, No.112-①「影書」, No.113-②「又響摺 摹寫」, No.114「瞋揖朵 通指以目 以手以頭」, No.115「黜落擯棄」, No.116「牢籠 試時密拳」, No.117「拳拳於某」, No.118「悵惋 為人所先也」, No.119「簪褊輻輳」, No.120「欠伸欬側」, No.121「潦倒無屬叙之情 貴人不救族」, No.122「欵曲」, No.123「伶俚風塵」, No.124「匡謬繩愆」, No.125-①「寬假誘進」, No.126-②「采以備參核」, No.127「以資參證」, No.128「揀短」, No.129「磕頭」, No.130「廚竈針線」

次に短編集が該当するのではとの考えから、前後の語彙の出典用例を見ると、『喻世明言』、『警世通言』、『醒世恒言』の「三言」であることが判明、「三言」ならば短編、一話読み切りで、拾い読みも不自然ではない。

No.1「怨饒」:

喻世明言 第31卷 臨安裏錢婆留發跡

警世通言 第39卷 福祿壽三星度世

西遊記 第95回 假合真形擒玉兔 真陰歸正會靈元

No.2「無依靠」: 不明

No.3「痛傷噎倒」: 不明 (註:「西遊記」は該当なし)

No.4「打熬 忍耐」:

喻世明言 第1卷 蔣興哥重會珍珠衫 (4, 註-語の出現数, 以下同様), 第3卷 新橋市韓五賣春情, 第8卷 吳保安棄家贖友

警世通言 第24卷 玉堂春落難逢夫, 第33卷 喬彥杰一妾破家, 第35卷 況太守斷死孩兒

醒世恒言 第7卷 錢秀才錯占鳳凰儔, 第8卷 喬太守亂點鴛鴦譜, 第20卷 張廷秀逃生救父, 第35卷 徐老僕義憤成家, 第39卷 汪大尹火焚寶蓮寺

No.5「險些 アブナク 最少シニテ」:

喻世明言 第2卷 陳御史巧勘金釵鈿, 第3卷 新橋市韓五賣春情, 第6卷 葛令公生遣弄珠兒, 第22卷 木綿庵鄭虎臣報冤, 第23卷 張舜美燈宵得麗女, 第38卷 任孝子烈性為神, 第40卷 沈小霞相會出師表

警世通言 第6卷 俞仲舉題詩遇上皇, 第15卷 金令史美婢酬秀童 (2), 第21卷 趙太祖千裏送京娘 (2), 第36卷 皂角林大王假形, 第39卷 福祿壽三星度世

醒世恒言 第4卷 灌園叟晚逢仙女, 第15卷 赫大卿遺恨鴛鴦條, 第16卷 陸五漢硬留合色鞋, 第18卷 施潤澤灘闕遇友, 第20卷 張廷秀逃生救父 (4), 第25卷 獨孤生歸途鬧夢, 第26卷

薛録事魚服證仙，第28卷 吳衙内鄰舟赴約，第29卷 盧太學詩酒傲公侯 (2)，第30卷 李汧公窮邸遇俠客 (4)，第35卷 徐老僕義憤成家，第36卷 蔡瑞虹忍辱報仇 (2)，第37卷 杜子春三入長安 (2)，第39卷 汪大尹火焚寶蓮寺

No.6 「情願」:

喻世明言 第1卷 蔣興哥重會珍珠衫 (2)，第2卷 陳御史巧勘金釵鈿 (5)，第5卷 窮馬周遭際賣緹 (註:食旁) 媼，第7卷 羊角哀捨命全交，第10卷 膝大尹鬼斷家私 (2)，第13卷 張道陵七試趙升 (2)，第15卷 史弘肇龍虎君臣會 (2)，第17卷 單符郎全州佳偶 (2)，第21卷 臨安裏錢婆留發跡 (2)，第22卷 木綿庵鄭虎臣報冤 (3)，第23卷 張舜美燈宵得麗女，第24卷 楊思溫燕山逢故人，第25卷 晏平仲二桃殺三士，第25卷 沈小官一鳥害七命，第27卷 金玉奴棒打薄情郎，第29卷 月明和尚度柳翠 (2)，第35卷 簡帖僧巧騙皇甫妻，第36卷 宋四公大鬧禁魂張 (4)，第37卷 梁武帝累修成佛，第39卷 汪信之一死救全家 (2)，第40卷 沈小霞相會出師表 (2)

警世通言 第2卷 莊子休鼓盆成大道，第5卷 呂大郎還金完骨肉，第6卷 俞仲舉題詩遇上皇，第7卷 陳可常端陽仙化，第11卷 蘇知縣羅衫再合 (3)，第12卷 範鰈兒雙鏡重圓，第14卷 一窟鬼癩道人除怪，第16卷 小夫人金錢贈年少，第18卷 老門生三世報恩 (5)，第20卷 計押番金鰻

產禍，第21卷 趙太祖千裏送京娘，第22卷 宋小官團圓破甌笠，第23卷 樂小捨棄生覓偶，第24卷 玉堂春落難逢夫，第25卷 桂員外途窮懺悔，第28卷 白娘子永鎮雷峰塔，第31卷 趙春兒重旺曹家莊，第33卷 喬彥杰一妾破家 (2)，第34卷 王嬌鸞百年長恨，第35卷 況太守斷死孩兒，第38卷 蔣淑真刎頸鴛鴦會

醒世恒言 第1卷 兩縣令競義婚孤女，第2卷 三孝廉讓產立高名，第3卷 賣油郎獨占花魁 (11)，第4卷 灌園叟晚逢仙女 (2)，第5卷 大樹坡義虎送親，第7卷 錢秀才錯占鳳凰儔 (4)，第8卷 喬太守亂點鴛鴦譜，第9卷 陳多壽生死夫妻 (5)，第10卷 劉小官雌雄兄弟，第13卷 勘皮靴單證二郎神 (2)，第15卷 赫大卿遺恨鴛鴦條 (2)，第16卷 陸五漢硬留合色鞋 (3)，第17卷 張孝基陳留認舅，第18卷 施潤澤灘闕遇友 (3)，第19卷 白玉娘忍苦成夫 第20卷 張廷秀逃生救父 (6)，第22卷 呂洞賓飛劍斬黃龍，第23卷 金海陵縱欲亡身，第26卷 薛録事魚服證仙，第27卷 李玉英獄中訟冤 (2)，第29卷 盧太學詩酒傲公侯 (4)，第30卷 李汧公窮邸遇俠客，第31卷 鄭節使立功神臂弓，第33卷 十五貫戲言成巧禍 (2)，第35卷 徐老僕義憤成家 (2)，第36卷 蔡瑞虹忍辱報仇 (3)，第37卷 杜子春三入長安 (3)，第38卷 李道人獨步雲門 (3)

No.7 「不停當 不妥也」:

儒林外史 第46回 三山門賢人餞別 五河縣

勢利熏心

西遊記 第41回 心猿遭火敗 木母被魔擒
(2), 第59回 唐三藏路阻火焰山
孫行者一調芭蕉扇 (2), 第63回 二
僧蕩怪鬧龍宮 群聖除邪獲寶貝, 第
67回 拯救駝羅禪性穩 脫離穢污道
心清, 第75回 心猿鑽透陰陽竅 魔
王還歸大道真

喻世明言 第3卷 新橋市韓五賣春情

No.8 「欺軟怕硬 俗吏」:

紅樓夢 第7回 送宮花賈璉戲熙鳳 宴寧
府寶玉會秦鐘

No.9 「支吾 彌縫」:

警世通言 第12卷 範鰈兒雙鏡重圓, 第15卷
金令史美婢酬秀童, 第34卷 王嬌鸞
百年長恨, 第35卷 況太守斷死孩兒

喻世明言 第3卷 新橋市韓五賣春情, 第26
卷 沈小官一鳥害七命, 第28卷 李
秀卿義結黃貞女

醒世恒言 第3卷 賣油郎獨占花魁, 第10卷
劉小官雌雄兄弟, 第13卷 勘皮靴單
證二郎神, 第17卷 張孝基陳留認
舅, 第23卷 金海陵縱欲亡身, 第28
卷 吳衙內鄰舟赴約, 第33卷 十五
貫戲言成巧禍, 第34卷 一文錢小隙
造奇冤

No.131 「歷練」:

警世通言 第11卷 蘇知縣羅衫再合
紅樓夢 第13回 秦可卿死封龍禁尉 王熙
鳳協理寧國府, 第84回 試文字寶玉
始提親 探驚風賈環重結怨, 第115
回 惑偏私惜春矢素志 證同類寶玉
失相知

官場現形記 第2回 錢典史同行說官趣 趙
孝廉下第受奴欺, 第29回 傻道臺訪

艷秦淮河 闊統領宴賓番菜館, 第32
回 寫保符筵前親起草 謀厘局枕畔
代求差, 第33回 查帳目奉札謁銀行
借名頭斂錢開書局, 第34回 辦義賑
善人是富 盜虛聲廉吏難為 (2), 第
35回 捐巨資 得高官 吝小費貂
發妙謔 (2), 第47回 喜掉文頻頻說
白字 為惜費急急煮烏煙, 第58回
大中丞受制顧問官 洋翰林見拒老前
輩, 第59回 附來裙帶能諂能驕 掌
到銀錢作威作福 (2), 第60回 苦辣
甜酸遍嘗滋味 嬉笑怒罵皆為文章
(2)

No.132 「蹊蹺古怪事 マチガヒ」: 大唐三藏取經詩
話 第5

No.133 「埋怨 コボス」:

琵琶記 第5齣【前腔】做孩儿节孝怎全? 做
爹行不从人几諫。呀! 俺为人子, 不当
恁地说。也不是要埋冤, 影只形单, 我
出去有谁来看管。(合前)

警世通言 第11卷 蘇知縣羅衫再合, 第13卷
三現身包龍圖斷冤 (3), 第14卷 一
窟鬼癩道人除怪, 第15卷 金令史美婢
酬秀童 (2), 第16卷 小夫人金錢贈年
少, 第21卷 趙太祖千裏送京娘 (2),
第24卷 玉堂春落難逢夫, 第28卷 白
娘子永鎮雷峰塔, 第35卷 況太守斷死
孩兒, 第38卷 蔣淑真刎頸鴛鴦會

No.134からNo.142 不明

No.134 「不湏掛牽 心配スナ」, No.135 「青頭。烏
龜。王八。(Hahnrei)」, No.136 「官人 婦呼夫」, No.
137 「娘子 夫呼婦」, No.138 「孩兒 親呼子」, No.139
「爹爹 子呼父」, No.140 「媽媽 子呼母」, No.141 「公
公 少呼老。男子」, No.142 「婆婆 同。女子」

No.143からNo.183については、前述のとおり、小島氏によって出所が判明している。

No.184からNo.187は不明

No.184「剗草洗苔」、No.185「齒擊股栗」、No.186「穀鯨之態可掬」、No.187「吃々匿笑」

No.188「索負 (mah-nen)」:

聊齋志異 卷11. 王大 見者無不掩笑。一日、見王大來索負。周厲聲但言無錢、王忿而去。

No.189「典質 (verpfänden)」:

聊齋志異 卷3. 宮夢弼 (2) 和泣囑速返、宮諾之、遂去。和貧不自給、典質漸空。日望宮至、以為經理、而宮滅跡匿影、去如黃鶴矣。

卷3. 賭符 族人見而悅之、罄貲往賭、大虧；心益熱、典質田產、復往、終夜盡喪。邑邑不得志、便道詣韓、精神慘淡、言語失次。

卷7. 僧術 見黃、歎曰：「謂君騰達已久、今尚白紵耶？想福命固薄耳。請為君賄冥中主者。能置十千否？」答言：「不能。」僧曰：「請勉辦其半、餘當代假之。三日為約。」黃諾之。竭力典質如數。三日、僧果以五千來付黃。

卷11. 段氏 連七十餘歲、將死、呼女及孫媳曰：「汝等誌之：如三十不育、便當典質釵珥、為婿納妾。無子之情狀實難堪也！」

卷11. 樂仲 或以賭博無貲、對之歎歎、言追呼急、將鬻其子。仲措稅金如數、傾囊遺之；及租吏登門、

自始典質營辦。以故、家日益落。

卷11. 石清虛 邢曰：「雖萬金不易也。」尚書怒、陰以他事中傷之。邢被收、典質田產。尚書託他人風示其子。

卷12. 紉針 范未遑謝、女已哭伏在地、益加惋惜。籌思曰：「雖有薄蓄、然三十金亦復大難。當典質相付。」母子拜謝。夏以三日為約。

No.190「控諸官 (anklagen)」:不明

No.191「斧資已罄」: 聊齋志異 卷3 雛鶴、王汾濱言：其鄉有養八哥者、教以語言、甚狎習、出遊必與之俱、相將數年矣。一日、將過絳州、去家尚遠、而資斧已罄。其人愁苦無策。鳥云：「何不售我？送我王邸、當得善價、不愁歸路無貲也。」其人云：「我安忍！」鳥言：「不妨。主人得價疾行、待我城西二十里大樹下。」

No.192「有彈指声 (Klogyen)」:不明

No.193「駟僮。欺者。」: 儒林外史 第11回 魯小姐制義難新郎 楊司訓相府薦賢上

No.194からNo.200出処不明

No.194「含糊取利。ゴマカス。」、No.195「取宿逋。古キ貸ヲトル也。」、No.196「鳩工庀材」、No.197「奩飾。嫁時ニ言フ。」、No.198「詢其來由」、No.199「裝束將出。支度。」、No.200「點甯 (Correctur)」

No.201-①「披堅執銳」:

三國演義 第72回 諸葛亮智取漢中 曹阿瞞兵退斜谷、第83回 戰猊亭先主得仇人 守江口書生拜大將、第103回 上方谷司馬受困 五丈原諸葛禳星

聊齋志異 卷8. 男生子 楊妻夙智勇，疑之，
沮楊行，楊不听。妻涕而送之。归则
传齐诸将，披坚执锐，以待消息。

No.202 - ② 「衝鋒陷鏑」：不明

No.203 「餉用未集」：不明

No.204 「敢妄言唐突我」：不明

No.205 「紆青拖紫」：不明

No.206 「嚶々然自鳴異」：不明

No.207 「闕傳人口」：不明

No.208 「貸於誰 (leihen)」：不明

No.209 「署券」：

聊齋志異 卷4. 青梅 女急進曰：「青梅待我
久，賣為妾，良不忍。」
王乃傳語張氏，仍以原
金署券，以青梅嬪於生。

卷6. 考弊司 生頓念腰囊空虛，
惶愧無聲。久之，曰：
「我實不曾攜得一文，宜
署券保，歸即奉酬。」媼
變色曰：「曾聞夜度娘索
逋欠耶？」秋華頓蹙，不
作一語。

卷7. 二商 世間無兄弟者，便都
死卻耶？我高葺牆垣，
亦足自固。不如受其券，
從所適，亦可以廣吾
宅。」計定，令二商押署
券尾，付直而去。二商
於是徙居鄰村。

卷8. 局詐 其人曰：「此無須踟躕。
某不過欲抽小數於內兄，
於將軍鎔銖無所望。言
定如干數，署券為信。
待召見後，方求實給；不
效，則汝金尚在，誰從

懷中而攫之耶？」某乃
喜，諾之。

卷8. 霍女 黃問：「以何詞遣之？」
女曰：「請即往署券，去
不去固自在我耳。」黃不
可。女逼促之，黃不得
已，詣焉。

卷10. 珊瑚 而債家責負日亟，不
得已，悉以良田鬻於村
中任翁。翁以田半屬大
成所讓，要生署券。生
往，翁忽自言：「我安孝
廉也。任某何人，敢市
吾業！」

卷12. 薛慰娘 因問：「何來？」曰
：「昨夕馮某晚早登堂，
一署券保。適途遇之，
云偶有所忘，暫歸便
返，使僕坐以待之。」少
間，生及叔向皆至，遂
相攀談。

No.210 「追呼急。催促也。」：

聊齋志異 卷11. 樂仲 諸無行者知其性，咸
朝夕騙賺之。或以賭博
無賞，對之歎歎，言追
呼急，將鬻其子。仲措
稅金如數，傾囊遺之；
及租吏登門，自始典質
營辦。

No.211 「訟師。代言人。」：

官場現形記 第9回 觀察公討銀翻臉 布政
使署缺傷心「現在既然山東來電
一定要退，只好請訟師同他打官
司。」（註：同回到8か所）
第10回 怕老婆別駕擔驚 送胞

妹和尚多事

第51回 復雨翻雲自相矛盾 依
草附木莫測機關

No.212からNo.254不明

No.212-①「輾轉凶維」, No.213-②「意得一策」, No.214「編述顛末」, No.215「淚眦熒々」, No.216「甄拔人才」, No.217-①「髮指眉軒」, No.218-②「神情奕々」, No.219-①「淹貫經籍」, No.220-②「博通墳典」, No.221「自媿奔陋」, No.222-①「讐勸之」, No.223-②「脫誤多」, No.224「承訛襲謬」, No.225-①「脚蹠踐哉」, No.226-②「何不買婢供設」, No.227「祇些小口角耳」, No.228「少失怙恃」, No.229「争委禽」, No.230「佻達寡信」, No.231「矚其外出」, No.232「縹帙牙籤」, No.233「客欺闕而至」, No.234-①「消遣世慮」, No.235-②「陶冶閑情」, No.236「琢抉微奧」, No.237「衣布茹素」, No.238「筆耕針縵」, No.239「兢兢然以道統自任」, No.240「講說亶々不止」, No.241「恨々无所之」, No.242「微明堪辨認」, No.243「傑構鴻篇」, No.244-①「偶爾之作」, No.245-②「不足辱齒頰」, No.246「驕從煊嚇」, No.247「細語囁々」, No.248「以衣付質庫中索金」, No.249-①「民為圉鍊」, No.250-②「以扞衛」, No.251「助順剿逆」, No.252「禦灾捍患」, No.253「鴟哭殞殮」, No.254-①「履敵踵決」: (註: No.255と続くため、『聊齋志異』と思われる)

No.255-②「懸鶉百結」: 聊齋志異 卷2. 張誠 逾年, 達金陵, 懸鶉百結, 僂僂道上。偶見十餘騎過, 走避道側。內一人如官長, 年四十已來, 健卒怒馬, 騰蹕前後。一少年乘小駒, 屢視訥。訥以其貴公子, 未敢仰視。少年停鞭少駐, 忽下馬, 呼曰:「非吾兄耶!」訥舉首審視, 誠也。

握手大痛, 失聲。

No.256からNo.263まで出処不明

No.256-①「抗節捐軀」, No.257-②「志操皦然」, No.258「惴々心悸」, No.259「色戰毛載」, No.260「控弦皦失」, No.261「吹角鳴々」, No.262「將物付還」, No.263「人面桃花之嘆。綠華之嘆。」

No.264-①「締絲蘿」: 儒林外史 第19回 匡超人幸得良朋 潘自業橫遭禍事 匡超人不看便罷, 看了這款單, 不覺聽的一聲, 魂從頂門出去了。祇因這一番, 有分教: 師生有情意, 再締絲蘿; 朋友各分張, 難言蘭臭。

No.265からNo.282まで出処不明

No.265-②「踐鸞盟」, No.266「步動雲桂」, No.267「香飄霞縠」, No.268「欸門甚急」, No.269「魚沉厂杳」, No.270「傑出輩行」, No.271-①「低鬟雲擁」, No.272-②「媚眼星流」, No.273「冉冉而滅」, No.274-①「研黛簪花」, No.275-②「染脂調粉」, No.276-①「行步娉婷」, No.277-②「腰支纖垂」, No.278-①「特具不腆」, No.279-②「敬迓清輝」, No.280-①「肴核雜陳」, No.281「履易交錯」, No.282「恭坐莊容」

No.283「舉於口」からNo.376「寢以微滅危」については、筆者の調査により前述のとおり『韓昌黎全集』よりと判明している。

No.377からNo.381まで出処不明

No.377-①「辨難糾紛」, No.378-②「幾如聚訟」, No.379「拘牽扞格」, No.380「不能相通」, No.381「衆言淆乱」

No.382「心嚮往」: 聊齋志異 卷3. 宦娘 惠

顧時，得聆雅奏，傾心嚮往；又恨以異物不能奉裳衣，陰為君膺合佳偶，以報眷顧之情。

No.391 「界。音秘。興也。」：

聊齋志異 卷3. 鳩鴿 鳥又言：「給價十金，勿多予。」王益喜，立界十金。其人故作懊恨狀而去。

卷12. 李八缸 翁曰：「我非偏有愛憎，藏有窖錕，必待無多人時，方以界汝，勿急也。」過數日，翁益彌留。問：「何在？」曰：「明日界汝。」醒而異之，猶謂是貧中之積想也。

紅樓夢 第64回 幽淑女悲題五美吟 浪蕩子情遺九龍佩

2-2

ただ単に検索にヒットしないため出処が提示されないことも大いに有得るので、『三言』、『聊齋志異』を精査すれば、出処不明語がかなり判明するものと思われるが、その作業は別に稿を起こす。各語彙と出処の文については、本稿では日本語訳を付さないことにした。各種邦訳を勘案する作業もまた別稿にて行い論じることにした。

本研究調査の一部は、平成23年度山口大学経済学部学術振興基金の助成を受けて実施したものである。

按：

「三言」とは、明末17世紀前半に刊行された短編白話小説集、宋元からの説話、話本を馮夢竜が編じた。これに凌濛初編の『初刻拍案驚奇』、『二刻拍案驚奇』を加えて、『三言二拍』と呼ばれる。各巻40巻、計200巻（戯曲1巻、重複1巻、小説は198巻）。『今古奇観』は後にこのうち40篇を選んだもので、本邦では江戸期『通俗古今奇観』抄訳版本（文化11年-1814年 名古屋松屋平兵衛版 巻1-5 東大図書館）が流行した。『通俗古今奇観』-江戸時代の抄版、青木正児校訂で岩波文庫。『今古奇観』駒田信二・立間祥介他訳、平凡社：中国古典文学大系37.38、および平凡社東洋文庫全5巻。